

化学研究者の皆さんへ（化学史学会 入会案内）

日々忙しく化学の実験や研究に明け暮れている皆さんは、歴史を顧みる暇などないと思っ
ていないでしょうか。たとえ歴史に興味はあるにしても、それは老後の道楽といった程度に
考えている人も少なくないのではないのでしょうか。しかし実際に現役を引退して化学史を学
び始めた人々から、「現役のうちにもっと化学史を勉強しておけばよかった」という声がし
ばしば聞こえてきます。自分の学問領域の歴史を遡ることにより、自らの立ち位置を知り、
研究の意義や意味を一層深く認識することができます。また、先人たちの成功や失敗を知り、
彼らの生き方や業績を理解することは、研究のモチベーションにもなります。歴史は、これ
からの化学のあり方を考えるための豊富なデータバンクでもあります。歴史を学ぶことで、
あなたの世界が大きくなるのです。

人類の物質観はどのように変遷してきたのでしょうか。元素や原子は誰がどのように「発
見」したのでしょうか。学問としての化学は、いつどのように誕生し、専門分化・職業化し
てきたのでしょうか。化学理論の発展や盛衰のメカニズムをどう説明したらいいのでしょ
うか。実験装置や分析機器はどのように出現し発展してきたのでしょうか。化学は社会にど
のような影響を与え、また逆に社会からどのような影響を受けてきたのでしょうか。

化学史学会が年 4 回発行する『化学史研究』は、そんな化学史に関する疑問への答となる
豊かなコンテンツを提供してくれます。毎年開催される化学史研究発表会（年会）や化学史
研修講演会は、新たな発見や知的刺激に満ちあふれています。そこで出会う人々との交流も
実り多いものです。化学史学会は専門家・非専門家を問わず、誰にでも門戸を開いています。
さあ、化学史学会に入会して、化学史の扉を開いてみませんか！

理科の先生方へ（化学史学会 入会案内）

化学史学会は、化学の歴史やその周辺分野に関心を持つ研究者・技術者・教員・学生・市民等の交流の場です。1973年に「化学史研究会」として発足し、1984年に「化学史学会」と改称した本会は、会員数250名ほどの小さな学会ですが、定期的に研究発表会や研修講演会を開催し、年4回学会誌を発行するなど、その活動は活発です。2017年には、幅広い会員の協力を得て『化学史事典』を刊行しました。

中等教育の理科の授業を通じて、生徒らは科学（化学）の歴史を学んでいると言っても過言ではありません。2003年11月に「化学史と教育」シンポジウムを開催し、教育現場の理科の先生方を始め、多くの方々に研修の機会を提供できればと、その後2004年7月には化学史研修会を始め、さらに10年後、化学史研修講演会と名称をかえ、現在までにいろいろなテーマで実施してきました。

また、学会の名称に「化学」とありますが、人間による化学の営みを広い歴史的・社会的な文脈のもとで理解しようとする会員が多いため、化学や化学史の専門家以外の会員も多くいます。もし、化学の歴史、あるいは広く科学や技術の歴史に興味がありましたら、化学史学会から多くの情報や刺激を受けることができるでしょう。学会誌の編集委員会はほぼ毎月開催され、査読も迅速に行われますので、論文発表の場としても魅力があります。

本学会は、理科教師の皆さんの入会を歓迎しています。詳細な情報は、公式ウェブサイト (<https://kagakushi.org>) をご覧ください。

学生の皆さんへ（化学史学会 入会案内）

化学史学会は、化学の歴史やその周辺分野に関心を持つ研究者・技術者・教員・学生・市民等の交流の場です。1973年に「化学史研究会」として発足し、1984年に「化学史学会」と改称した本会は、会員数250名ほどの小さな学会ですが、定期的に研究発表会や研修講演会を開催し、年4回学会誌を発行するなど、その活動は活発です。2017年には、幅広い会員の協力を得て『化学史事典』を刊行しました。

学会の名称に「化学」とありますが、人間による化学の営みを広い歴史的・社会的な文脈のもとで理解しようとする会員が多いため、化学や化学史の専門家以外の会員も多くいます。もし、化学の歴史、あるいは広く科学や技術の歴史に興味を持っていましたら、化学史学会から多くの情報や刺激を受けることができるでしょう。また、学会誌の編集委員会はほぼ毎月開催され、査読も迅速に行われますので、論文発表の場としても魅力があると思います（本会は日本学術会議協力学術研究団体です）。

本会では、学生の方の入会を歓迎するとともに、様々な援助を行っています。学生会員（大学院生を含む）は、年会費の減額（正会員7000円のところ学生会員3000円）、年会の参加費や懇親会費の減額、年会参加交通費補助（研究発表する場合）などの援助が受けられます。

化学史学会への入会を是非ご検討ください。本会についての詳しい情報は、公式ウェブサイト（<https://kagakushi.org>）をご覧ください。幸いです。

『化学史研究』へ投稿してみませんか

科学史研究者の皆さんへ

化学史学会の定期刊行物『化学史研究』をご覧になったことはありますか。この雑誌は、ラヴォワジエの「化学革命」やドルトンの原子論、あるいはアンモニアソーダ法のような化学工業の製造法だけを取り上げているわけではありません。もう20年近く前でも、「Women in Science ことはじめ」、「魔女狩りと近代ヨーロッパ」など、一見すると化学史とはあまり関係ないように思える論文をいくつも掲載してきました。最近では「近代イギリスにおける科学の制度化」という特集のもと、8編の論文を上梓しました。化学や化学技術の研究現場はそれだけで完結した閉じた世界ではありませんので、これらについての歴史研究は、隣接領域の動向に目を配りながら、科学史研究、さらには歴史学全般の新しい潮流からも刺激を受けて、研究のレベルをたえず向上させていくべきだ、と化学史学会は考えているからです。

『化学史研究』は自分の研究と関係がないとか、扱っている領域が狭いと思っておられる科学史研究者の皆さん、是非ともここ数年間の雑誌を手にとってご覧ください。その結果、もしも認識を変えられたなら、是非、化学史学会へご入会ください。そしてできましたら、ご自身の研究テーマに関わる研究動向の総括、あるいは新しい研究方法の提案などについて、ご投稿ください。老若男女を問わず、挑戦的で意欲的なフレッシュな論稿をお持ちしております。

化学企業の技術者研究者の皆さんへ

どの企業にも商品があればその物が出来上がり、市場にでるまでの、商品開発の歴史があると思います。商品開発の中身は基本的な研究開発、量産化に向けた技術検討や生産技術の確立、さらに末端商品であればパッケージなど商品形態までの商品化に向けた検討が必要になるでしょう。これらの開発の中身は企業秘密に相当する部分もありますが、公開可能な部分も時間がたてば多くなると思われます。一般的には代表的な商品は年代順に各企業の社史の中に書かれているものが多いと思います。それらは立派な製本となり企業の本棚に大切に収められていることが多く、大切な企業の技術開発の歴史となっています。しかしながら、貴重な技術開発の歴史が、機密事項は別にして、埋もれてしまうのは残念に思われます。

化学史学会では技術史を扱ってきた実績もありますし、『化学史研究』や単行本として出版した例も多くあります。また化学技術史として発表する機会も多くあります。

是非、化学史学会に入会されて、自社技術の普及や日本や世界の技術史の研究や発表を試みませんか。また学会活動を通して化学技術の歴史を知る喜びを感じるとともに、商品開発に役立てて頂きたいと思います。

化学史学会入会・ご支援のお願い（維持会員・賛助会員のお誘い）

化学史学会は、化学の歴史やその周辺分野に関心を持つ研究者・技術者・教員・学生・市民等の交流の場です。1973年に「化学史研究会」として発足し、1984年に「化学史学会」と改称した本会は、会員数250名ほどの小さな学会ですが、定期的に研究発表会や研修講演会を開催し、年4回学会誌を発行するなど、その活動は活発です。2017年には、幅広い会員の協力を得て『化学史事典』を刊行しました。

本会は、会員相互の協力によって化学史研究の発展と普及をすすめることを目的としています。そしてその目的を達成するため、

- (1) 会誌および化学史に関する資料の刊行
- (2) 化学史に関する研究会、講演会、講習会および学会等の開催
- (3) 化学史に関する資料の収集と保存
- (4) 化学史研究に関する内外諸団体との研究連絡および情報の交換
- (5) 化学史に関する研究の助成および表彰

などを進めてまいりました。

これらの活動によって、化学の歴史に関心を待つ人・若者が増えること、化学の果たしてきた社会貢献への理解が深まることを願っています。本会の会誌『化学史研究』は、設立直後の1974年から発刊され、現在季刊（年4回）で通巻160号を越えており世界の中でも特に活動的な化学史の学会です。

ぜひ本会に入会して、会誌への投稿、研究会、講演会、講習会などを通じ、貴所の貴重な歴史情報や史料・社史、出版物、催事などのアピールの場としてぜひご活用下さい。入会された皆様には定期的に会誌をお届けして、最新の化学史研究の情報、講演会や催し物のご案内などを提供してまいります。本会の出版物の謹呈や特別割引もいたしております。

また本会は、毎年の予算決算、事業計画なども立て、会員総会に諮って活動しております（本会は日本学術会議協力学術研究団体です）。私たちの活動へのご参加・ご支援を是非ご検討ください。本会についての詳しい情報は、公式ウェブサイト (<https://kagakushi.org>) をご覧いただければ幸いです。